

トライアングルには大きく2つの音色（振動）の違いがあります。

1つは・・・ PURE NATUR TONE(図1)・・・純音、澄んでいる音

もう1つは・・・ DISSONANT TONE(図2)・・・倍音、深く厚みのある音

この2つの問題のために、振動の二つの様式について論議しなければなりません。

純音を出すのは2つの面から考えることができます。上下2方向に振動するトライアングルの開いた口があり、その反対側の中央から、2つの折り曲げられた角までは振動の交点がありません。（=振動が少ない）そのため倍音が少ない、澄んだ音が出せます。口が開いている2つの側面に90度の角度でそのトライアングルを打つことによってその音を出すことができます。（図3）

倍音は上記の2次元の振動からまた違う3つ目の振動が起きます。倍音は前述の純音のように、上下2方向の振動は起こりません。この振動のねじれ（科学的にトルクと呼ぶ）・・・いわゆる倍音を起こすのは、側面を45度の角度で打ちます。（図4）この振動のねじれがトライアングルに有利な望ましい音色を引き起こします。異なる音の出し方を理解したら、友人にピアノで一連のコード進行を演奏してもらい、あなたは同じリズムで「良い音」を出すことを心がけて演奏してみてください。表面的にトライアングルの音を聞いてみてください。そのピアノの和音にマッチするように音を変化させてみましょう！

トライアングルの角を平らに打つ方法は、ロールのテクニックにつながります。ピーターを回転させるのではなく、トライアングルの角に垂直に手首を動かしてください。そしてロールをしながら角のところから離していきます。（図5）音が充満し、ドラマティックに増加していくのがわかるでしょう。ピーターは平面に対し、鋭角に打ちます。

トライアングルは可能な限り手で持って演奏する方が好ましいでしょう。なぜなら、トライアングルをスタンドに吊したり、クリップで留めたりするとエネルギー（音）が消失してしまいます。静かな環境の中で、トライアングルをスタンドに掛け、それを重いピーターで演奏してみてください。そしてスタンドに触ってみてください。楽器から生じている振動が、スタンドに伝わっているのがわかると思います。もう1度手に持って演奏してみてください。音の違いがわかりますか？音のエネルギーは手で持っているときと消失されず、トライアングルの振動（=音）の大部分がそのままの形で放出されます。スタンドにつけて演奏すると振動が逃げてしまい、手に持って演奏した時と比べるとまったく乏しい音になってしまいます。

